

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	東京都	市町村名	府中市	大学名	
派遣日	令和 3年 8月20日(金曜日) 14:00~16:30 14:00~15:30 講義 15:40~16:10 参加者によるネットワーキング 16:10~16:30 質疑応答				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / (遠隔)				
派遣場所	Zoomによる遠隔での講義 ※府中駅北第2庁舎3階会議室での対面による研修実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮してオンラインでの実施に変更した。				
アドバイザー氏名	東京外国語大学多言語多文化共生センター長 小島祥美 准教授				
相談者	府中市市民協働推進部協働推進課				
相談内容	外国につながる子どもの支援について、小中学校の教員、地域の支援団体のボランティアが知識や情報を共有し対応力を高めるとともに、連携体制を構築していくために、 ・外国につながる子どもの現状と背景 ・教員、支援者が知っておくべき制度や施策 ・関係機関による連携体制の構築 について講義をいただきたい。				
派遣者からの指導助言内容	外国につながる子どもの現状について ・外国人の子どもの就学状況について、全国では18.1%の子どもは就学状況が確認されていない。中でも東京都は32.8%と高い割合になっている。 ・日本語での学習が難しいため小中学校への通学を諦めてしまう子どももいる。  学校での受入にあたって ・外国につながる子どもの受入にあたっては、特別な教育課程による日本語指導や下学年での編入などについて文科省から示されている。 ・外国につながる子どもは、母語では学習内容を理解できていても日本語が理解できないために教科学習の評点を低くされてしまう。日本語の側面だけでなく、母語での理解力も見て評価することが必要。 ・保護者には、家庭では子どもと母語でも話してもらいたい。母語は子どものアイデンティティの形成に重要な要素となる。 ・日本語で日常会話ができることと教科学習の理解度とは異なり、教科学習のための日本語習得までには時間も教育的支援も必要である。そのことを支援者は理解しておくべきである。 ・受入にあたっては、外国につながる子どもや保護者がいるからこそ、豊かな教育を				

(様式3)

	<p>実践できると捉え、またクラスの児童生徒にもどのように受け入れるか考えさせるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外国につながる子どもが自信と自己肯定感を持てるような取組を行いたい。</li></ul>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・新任の教員も多く参加しており、外国につながる子どもの現状や受入、支援にあたっての課題等を認識する機会となった。</li><li>・今後も外国につながる子どもの受入や支援に関する制度、実践例などを学ぶ機会を設けたい。</li><li>・学校や地域での支援について、支援関係者による情報交換の機会を設けるなど、関係機関の連携体制を構築していきたい。</li><li>・情報交換などを通して当市における課題を把握し、実情に即した有効な施策の実現につなげたい。</li></ul>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。